

04年度の入試傾向 受験生のみなさんへ

教育ジャーナリスト 専修大学入学アドバイザー 豊島継男

2004年度(平16)の一般入試の時期が迫ってきた。59万人弱の志願者を数える大学入試センター試験は1月17、18日に試験が行われ、専修大学も2月1日からの地区入試を皮切りに文・経済・経営・商・法・ネットワーク情報学部の試験が次々に実施されていく。

私大の出願を目前に、04年度入試はどのように展開されていくか。昨年度の状況も参考にしながらその流れを追ってみよう。

センター入試の志願者は減少したが、持つ意味は大きい

既に04年度のセンター試験の出願は締め切られて、志願者数は58万7389人とセンターは発表した(その後、若干の修正があるはずである)。この数は昨年に比べて1万5498人少なく、2.6%の減少率となった。昨年は志願者が60万人を超えて史上最多を記録していたから、それに比べるとかなり減少したかに見えるが、もともと04年度の入試生数は、筆者の推計では約82万2000人程度で、これは前年より3万2000人も減少(減少率は3.8%)しているので、センター試験の志願者は激減したわけではない。04年度入試においても、センター試験の持つ意味は一層重要なものになっている。

それは一つには04年度から新たにこの試験の成績を利用して入試を行う私立大学・学部が36大学94学部増え、そのうえ今回から短大試験にもこの試験が利用されるようになって、センター試験志願者の層がますます広がっていると見られるからである。

その中であって、国立大学は02年度から、多くの大学学部でセンター試験の受験科目を5教科7科目に増やした。それは国立大学受験生の大きな負担増となっていることから、国立大学への出願はやや控えめとなっていこう。国立大学への志願者数は最終的にはセンター試験受験後の各科目の平均点によって大きく変わってくるが、少なくとも科目増のあった大学学部の志願者は減少するだろう。結果的には国立大は減少傾向にあるといえる。

それに対して私立大学は、センター試験初参加の大学の増、話題の新設学部・学科を持つ大学を中心に志願者の急増するところが見られるかも知れない。また注目のロースクールの04年度開設や多くの薬学部の新設は法学系・薬学系の志願者増加をもたらすだろう。

専大はセンター試験利用・地区入試が狙い目 志願者は前年並みか

その中であって、専修大学の一般入試はどう展開するか。前年度と選抜方式は基本的に変わらないが、商学部会計学科が商業学科と同じく得意科目重視のB方式を加える。

03年度入試では志願者が02年度より減少したが04年度も全体的な受験生減から前年並みかやや減の志願者数が見込まれる。文学部と経済学部・商学部はほぼ前年並みか前年を下回る志願者だが、経営学部は上向いている。法学部は全国的な法学部人気を受けてやや増。ネットワーク情報学部も前年、志願者減が大きかったので今回は回復するだろう。

学科別に見ると、03年度に人気の高かった国際経済学部は今回も人気を保っている。文学部では日本語日本文学・英語英米文学科が前年同様に好評だ。心理学科は03年度にやや志願者数が減ったが、相変わらずの高倍率。04年度も倍率はやや下がるだろうが人気は依然として高い。専修大でもセンター試験を取り入れた選抜が行われているが、04年度はいくらか低下気味なので出願のチャンスだ。地区入試も日程が早いせいか、まだ受験生が流動的だ。意外にここが穴場になるかも知れない。

入試の準備に完全はない。最後まで諦めずに努力した人に好結果が生まれるもの

だ。センター試験の過去問を再度点検しよう。さらに重要事項を確認しておこう。適度の緊張感をはかってケアレスミスを防ぐ。あわてず、騒がず、落ち着いて。ご健闘を祈ります。

【ニュース専修11月号2面】

ジョン・F・ケネディの政治理念と発言を検証

没後40年衰えぬ人気 図書館神田分館がシンポジウム



ジョン・F・ケネディ米大統領の暗殺から40年にあたる11月22日、「ケネディ大統領の政治理念と発言」をテーマとしたシンポジウムが、藤本一美法学部教授の総合司会により神田キャンパスで開催された＝写真。

衝撃的な暗殺事件の謎を探る映画「JFK」の上映のあと、講演会ではその生涯と足

跡、60年代という時代状況、提唱したニューフロンティア政策、マスメディアとの関係などを研究者二氏が解説。学生ら学内外から延べ80人が参加し、今なお衰えぬ人気で語り継がれるケネディの理念を検証し、同時に現代の米国の政治状況についても考えた。

主催した図書館神田分館では、大統領就任演説原稿(複製)、暗殺を伝えるニューヨークタイムズ紙、関連書籍などの展示も12月13日まで行った。

【ニュース専修11月号2面】

5分科会で活発討議 第51回専修大学教育学会



▲在学生も参加した分科会



▲講演する常田氏

専修大学教育学会(会長=出牛正芳学長・理事長)の第51回大会が11月23日、神田キャンパスで開催された。本学を卒業して全国の小・中・高校で教鞭をとる教職者や、将来教員を目指す在学生など約130人が出席。分科会、記念講演会、定期総会が行われた。

錦織政晴(昭55院文修・都立稲城高校教頭)の総合司会で、分科会は「小学校教育(総合的な学習の時間)」「国語科教育」「英語科教育」「地理歴史・公民・社会科教育」「商業・情報科教育」の5部門に分かれて、2人の発表を軸に今日の教育方式をめぐる諸課題を討論した。

午後の記念講演は『「教科書」の制作にかかわって』と題して、光村図書館出版(株)常田寛代表取締役社長(昭37商経)が、現場の視点から教科書の制作過程や問題点に論及した。

このあと記念撮影に続く定期総会では、出牛会長から新会員を歓迎して記念品が贈呈された。

【ニュース専修11月号2面】